

独学と謂われている野口英世の研究の道程

—北里柴三郎との関連をも含めて—

殿崎 正明

日本医科大学 教育推進室 医史学教育研究会、日本医史学会会員

財団法人野口英世記念会の専務理事関山英夫先生は、「野口英世は日本で最も多くの伝記を書かれている人物といわれておりますが、それらの全てが、こと野口の済生学舎時代、或いは済生学舎に関する事項については全く想像でしか書かれて来ておりません。野口英世の済生学舎に関する事実の調査を何年かかっても結構ですから、是非お願い致します。」と、約 20 年前に唐沢信安先生に頼まれて今日に至っている。

私は、最近 7 年間唐沢先生のご指導のもとで日本医科大学の歴史について勉強させて頂いており、本日は唐沢先生が約 20 年間に亘って調べ上げた野口英世に関する新事実を中心に野口英世と北里柴三郎との関連も含めて紹介する。

野口英世はよく独学で勉強したと云われてきているが、済生学舎時代前後の事実が判明していなかったために伝えられて来なかったと言う事ができる。従って以下に、

- 1) 野口英世が済生学舎に学んだ事実
- 2) 渡部鼎の「病理学的細菌学的検究術式綱要」による指導
- 3) 済生学舎で誰に何を学んだか
- 4) 順天堂時代に野口を指導した済生学舎出身の菅野徹三
- 5) 野口英世の細菌学への転機
- 6) 伝染病研究所時代
- 7) 横浜海港検疫所時代
- 8) 大正四年一時帰国時の済生学舎同窓生による歓迎会

に分けてその時々で良き師と良き先輩・学友に恵まれた野口英世が、世界的細菌学者を目指してアメリカに渡り活躍することになるまでの済生学舎に関する足跡について報告する。

【講演者プロフィール】

殿崎正明 (とのさき まさあき) 昭和 23 年 9 月 18 日生

昭和44年3月	図書館短期大学図書館学科卒業
昭和46年3月	中央大学第2文学部仏文学科卒業
昭和61年3月	慶應義塾大学大学院文学研究科図書館情報学修士課程修了

職歴

昭和 44 年 4 月—現在	日本医科大学図書館勤務
平成 9 年 4 月	事務室長
平成 18 年 11 月—現在	教育推進室兼務(医史学教育)

基調講演

教育歴

昭和50年4月～

昭和53年3月

平成5年4月～現在

平成10年4月～現在

平成18年1月～現在

平成14年～現在

平成14年～平成20年

山梨英和短期大学非常勤講師(図書館資料論、図書分類法)

大東文化大学 文学部教育学科非常勤講師(情報検索演習、大学図書館論)

共立女子大学文芸学部,非常勤講師(情報検索演習、専門資料論、コミュニケーション論)

近畿大学通信教育部 非常勤講師(情報検索演習)

日本医科大学にて、臨床医学総論「先人の業績」、NMS 医学教育カリキュラム総論「野口英世に学ぶ」講義担当

Journal of Electronic Resources in Medical Libraries, Routledge 編集委員

NPO 法人 日本医学図書館協会専務理事

所属学会

日本端末研究会(世話人代表)、日本医学教育学会、日本医史学会、野口英世細菌検査室保存会

American Association for the Advancement of Science

International Society for Knowledge Organization (Germany)

編著書

1) 医学図書館, 図書館年鑑 1982-2008. 日本図書館協会 1982-2008.

2) 図書館用語集 三訂版(編集・執筆) 日本図書館協会、2003.11.20.

3) 情報検索演習、初版—第7版、恒星社、2003-2009.

論文等

英文

1) Proposal of the movement that publishes the results of scientific research of home country to scientific journals of home country. Igaku Toshokan 2006;53(1):36-40.

2) Librarian's role of scientific information communications in the future : Aiming at the scientific information founding a state and the intellectual property founding a state. Online Kensaku 2006;27(1):1-5.

3) Investigative Analysis of Japanese journals indexed in PubMed for recent three years. Online Kensaku 2006;27(2):95-105.

4) Outflow level of the results of Japanese medical research to foreign countries— Ratio analysis of the number of Japanese research articles published to foreign or Japanese journals in PubMed. Online Kensaku 2006;27(3/4):154-162.

和文

1) 日本医科大学の前身済生学舎卒業生野口英世に関する新事実—野口英世の済生学舎在学中の足跡に迫る!! 日本医科大学同窓会報. 2005; 327:2-4.

2) 日本の学術雑誌を世界に普及させる必要性和その方法. 情報の科学と技術 2005;55(2):88-90.

3) 私立日本医学校設立者・山根正次の医学教育の失敗. (共著) 日本医史学会雑誌 2005;51(2):218-219.

4) 日本医科大学の前身済生学舎が突然廃校になった真実の経緯—東京帝国大学教授陣の圧力. (共著) 日本医史学会雑誌 2006;52(1):76-77.

5) バルセロナおよびブダペストで2005年に開催された国際ワークショップ・ハンガリー医学図書館協会年次大会への参加報告. 医学図書館 2006;53(2):179-188.

6) 野口英世訳カールデン著『病理学的細菌学的検究術式綱要』の原書について(共著) 日本医史学雑誌 2007;53(1),110-111.

7) 済生学舎出身の旧制金沢医科大学学長須藤憲三に関する新事実(共著) 日本医史学雑誌 2008;54(2),148.

8) 藩閥政治から見た済生学舎廃校の真の原因—山県有朋、池田謙齋、入沢達吉との関係—.(共著) 日本医史学会雑誌 2009;55(2):156.